



# 重力感受性を指標とした平衡機能検査法の開発

和田 佳郎

Yoshiro Wada

耳鼻咽喉・頭頸部外科学／特任講師

■キーワード めまい、重力感受性、平衡機能検査、耳石器、代償不全、代償過剰

## シーズ概要

原因不明のめまい患者はフワフワ感を訴える場合が多く、重力を感じる耳石器の機能障害が関与すると考えられてきた。しかし、耳石器機能を簡便に診断する臨床検査法がなく、今回、重力感受性を指標とした平衡機能検査法（頭部傾斜SVV法）を開発した。検査は、視覚情報が無い条件下で頭部を左右に傾斜させ、その際の自覚的視性垂直位と頭部傾斜角度から頭部傾斜感覚（HTP）を求める。横軸を実際の頭部傾斜角度、縦軸をHTPとして測定データをプロットすると直線関係となることから、近似直線のslopeをHTPGと定義し、重力感受性の指標とした。重力感受性は、HTPGが1であれば正確、1より大きければ過大、1より小さければ過小と評価できる。検査システムは図に示すように、軽量・コンパクトで、簡単な操作で10分以内に結果が求まる。

頭部傾斜SVV法



## 研究成果の応用可能性

本検査法は、めまいの診断に関係する耳鼻咽喉科分野のみならず、めまいの回復を目指したりハビリテーション分野やスポーツパフォーマンス向上を目的としたスポーツ分野など幅広い領域に応用可能と考えている。

## Appeal Point

アピールポイント

本検査法によって診断される重力感受性障害の治療装置の開発も並行して進めている。本検査法や治療装置により、これまで不明であっためまいの迅速で正確な診断と治療が実現すれば、医学的のみならずその経済的、社会的価値も大きい。

## 関連文献／特許

1. 文献：日耳鼻、2016、Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2020など計8編
1. 特許：『耳石器の機能を検査する方法』（特許6105383）など計2件